

BrightSign®



BrightAuthor 3.5 機能別設定例

本書で述べられている製品やサービスは、2013年12月現在のものであり、改善のため事前の予告なく変更する場合があります。

Ver:BA_3.5.0.39

BrightSign®

はじめに

BrightAuthor 3.5機能別設定例について

本書ではBrightAuthorの設定例を紹介しています。BrightAuthor日本語マニュアル（User Guide BrightAuthor Release 3.5）の補足資料としてご活用ください。

目次	
Page3	----- 新規プロジェクトの作成
Page5	----- ループ再生の設定
Page7	----- プレゼンテーションのPublish（書き出し）
Page9	----- 時刻の設定
Page12	----- スケジュールの設定
Page14	----- シリアル制御の設定
Page16	----- UDP制御の設定
Page18	----- GPIO制御の設定
Page20	----- 同期再生 (Synchronization)
Page30	----- IPアドレスの設定
Page33	----- ネットワーク機能の紹介
Page35	----- Local File Networkingの設定
Page40	----- Simple File Networkingの設定
Page45	----- コンテンツファイルの変更
Page47	----- HTML5の設定
Page51	----- HDMI入力の設定



新規プロジェクトの作成

新規プロジェクトの作成

新規プロジェクトの作成

BrightAuthorを起動し『File > New Presentation』を選択します。New projectウィンドウが開きますので、項目に沿ってプロジェクトの作成を行います。

Save As: プロジェクト名

Where: プロジェクトの保存先を選択

BrightSign Model: 機種を選択

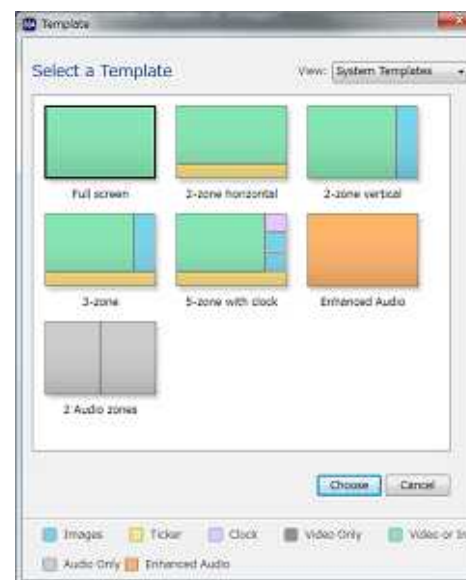
Connector type: 接続モニターのタイプを選択

Screen resolution: 表示解像度を選択（Connector typeによって表示解像度が異なります）

Monitor orientation: 作成イメージを選択（Portrait（縦表示）を選択しても、最終的なコンテンツは縦表示にはなりません）

Monitor overscan: オーバースキャンして表示される場合に設定をします。通常はNo overscan – use full screenで問題ありません。

CreateボタンをクリックするとTemplateウィンドウが表示されます。テンプレートはあらかじめ複数のパターンが準備されていますが、設定後にレイアウトを自由に変更することができます。



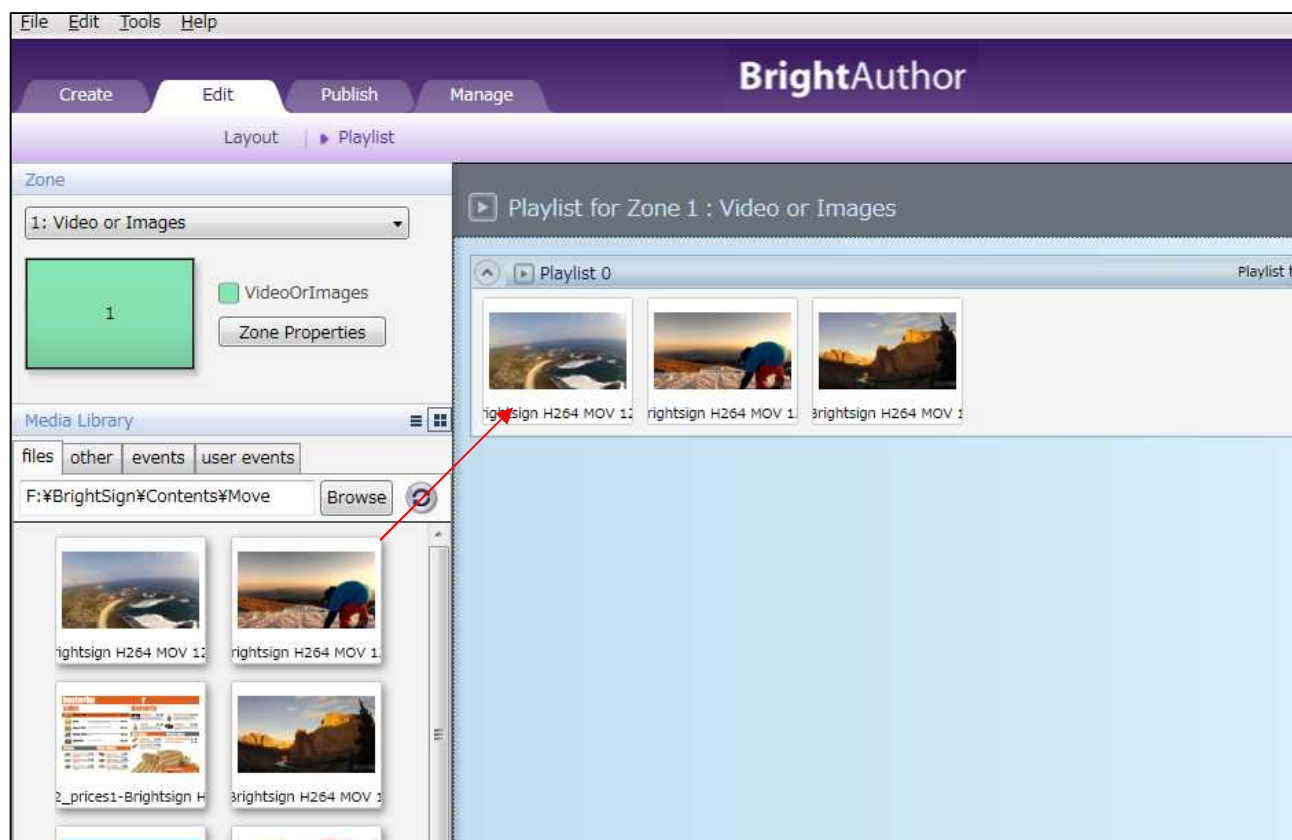


ループ再生の設定

ループ再生の設定

ループ再生の設定

Media Library > filesタブからコンテンツが保存されているフォルダーを選択します。フォルダーを選択後、Playlistの欄に表示をさせるコンテンツをドラッグします。コンテンツを配置した順番に再生されます。



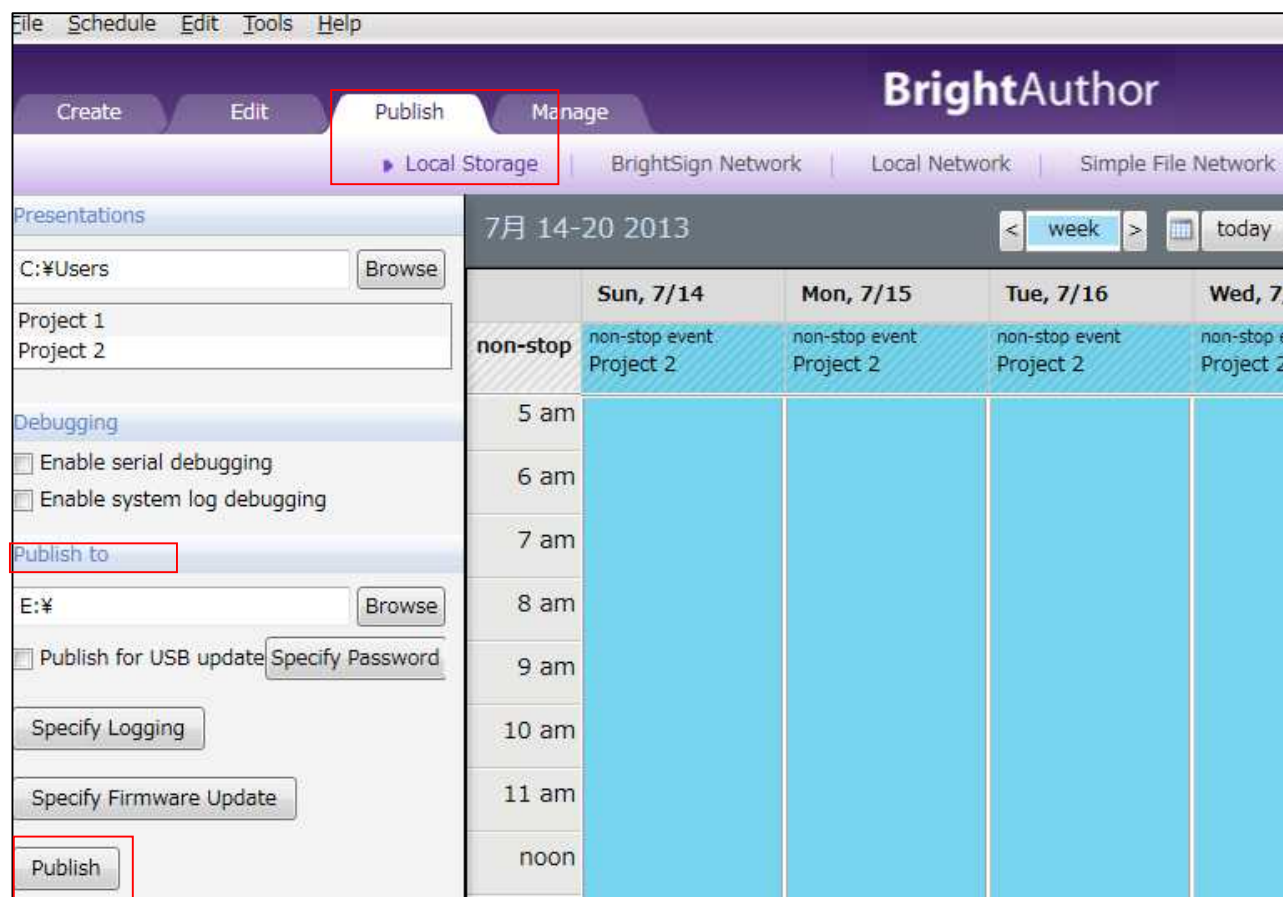


プレゼンテーションのPublish(書き出し)

プレゼンテーションのPublish（書き出し）

Publish方法

Editタブで作成したプレイリストをPublishします。Publishタブへ移動しLocal Storageを選択します。Publish toから保存先を選択し、Publishボタンをクリックすると作成されたファイルが書き出しされます。書き出されたファイルを空のSDカードにすべてコピーしBrightSignに入れ電源をONにすると作成したコンテンツが表示されます。





時刻の設定

時刻の設定

BrightSignの時刻設定の方法は2通りあります。

1. ネットワーク経由
2. ローカル設定

設定手順

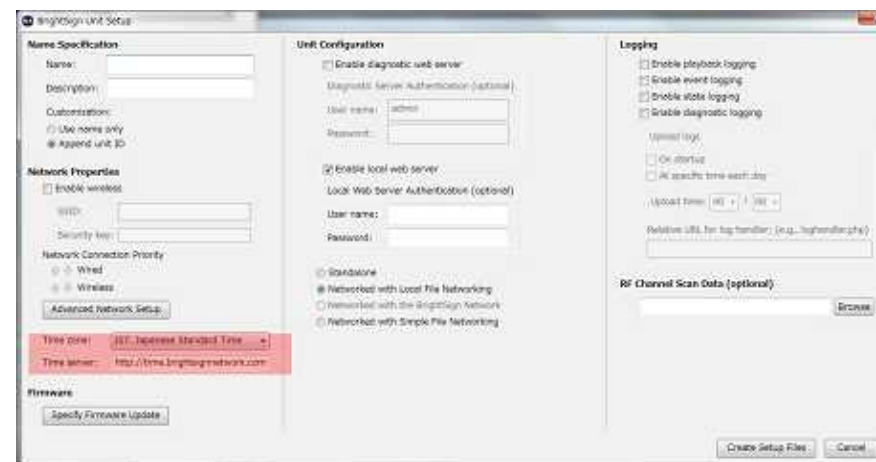
1. ネットワーク経由

BrightAuthorのメニューより、『Tools > Setup BrightSign Unit』 BrightSign Unit Setupウィンドウを開きます。
Time zone : 『JST:Japanese Standard Time』を選択 Time sever : Time severを設定、変更がなければデフォルト (Time.brightsignnetwork.com) のままご利用ください。

Unit Configuration (中央) の項目でご利用になる機能 (Standalone, Local File Networkingなど) にチェックを入れます。
Create Setup FilesのボタンをクリックしSDカードに保存します。

* BrightSign本体にIPアドレスを指定する場合は、「Advanced Network Setup」からIPアドレスを設定します。

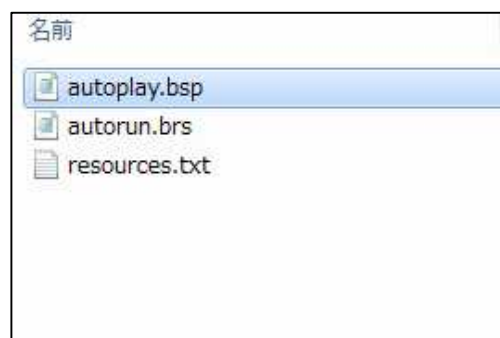
BrightSignをNetworkに接続しておき、SDカードをBrightSignに挿入し電源をONにすると時刻の設定を行います。
設定後Standaloneの場合のみSDカードを抜きます。



設定手順

2. ローカル設定

CDに同梱しているDate_timeフォルダーを開きReadme.txt以外のファイルを、データの入っていない空のSD カードにコピーします。autoplay.bspをメモ帳などで開き、TimeZoneにJST、SETDATETIMEに**設定する日時**を入力し保存します。BrightSign本体にSDカードを挿入し起動させます。BrightSignに接続しているモニターに設定した日時が表示されますので、そのままの状態ですべて4時間以上置きます(内蔵バッテリー充電の為)。4時間以上経過後、SD カードを抜きます。



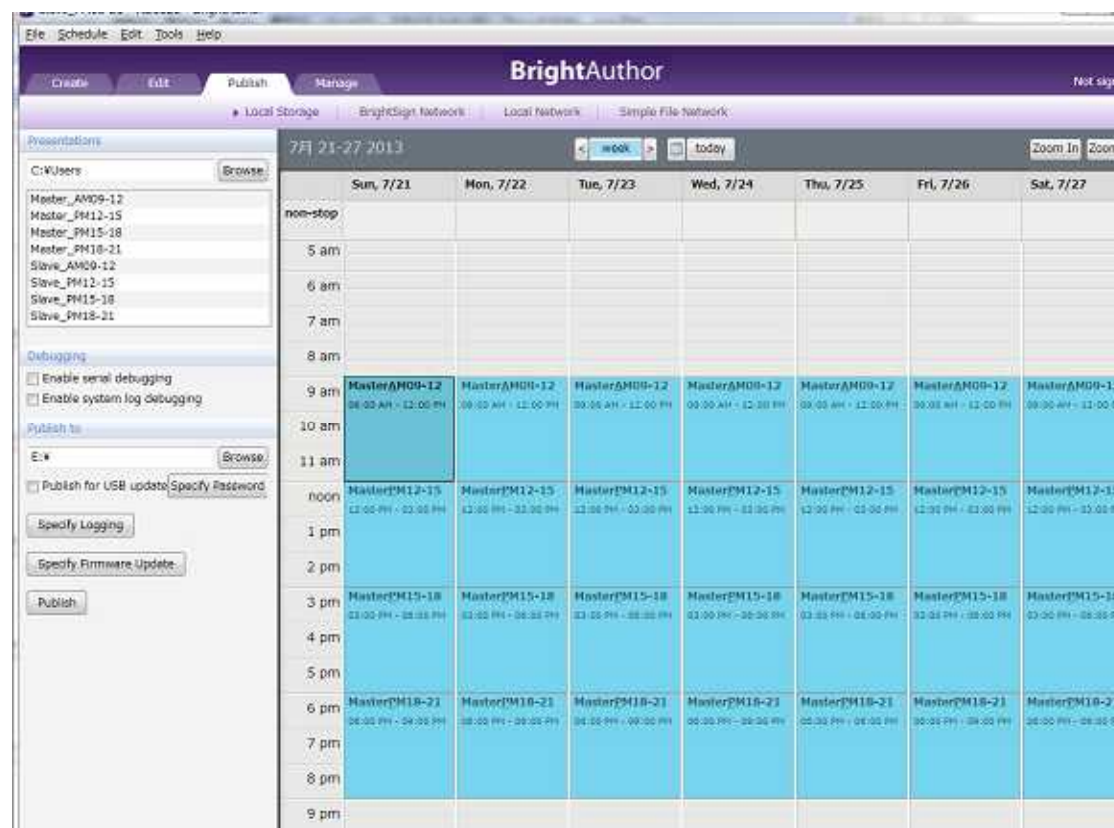
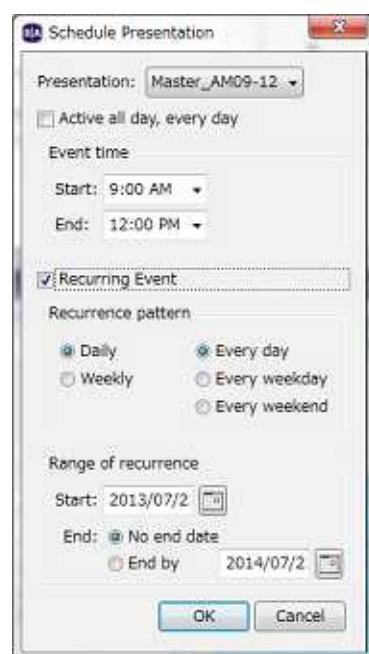


スケジュールの設定

スケジュールの設定

スケジュールの設定

Publish（書き出し）のタブでスケジュールの設定を行うことができます。スケジュール欄をダブルクリックするとSchedule Presentationウィンドウが開きます。Presentationから表示させるコンテンツを選択します。Event timeではPresentationを表示させる時間を選択できます。時間は任意に設定できます。作成したスケジュールは『Schedule > Save』で保存します。





シリアル制御の設定

シリアルの設定

シリアルの初期設定

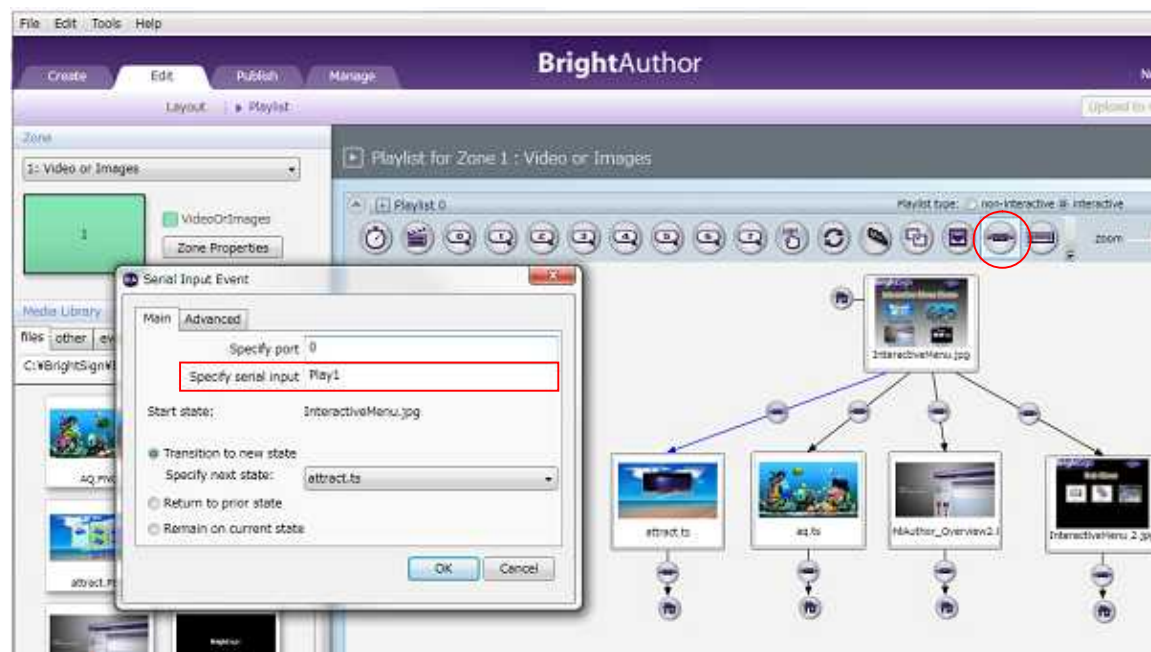
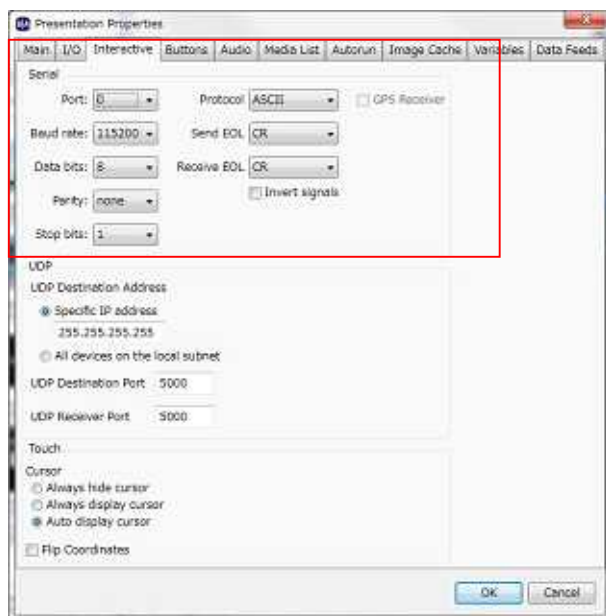
BrightAuthorのメニューより、『File > Presentation Properties > Interactive』 Presentation Propertiesウィンドウを開きます。この項目でシリアルの初期設定を行います。設定完了後OKをクリックしPresentation Propertiesウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面からシリアルの信号を受けて4つの映像に分岐しています。シリアルイベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋ぎます。Serial Input Eventウィンドウが開きますので、Specify serial inputの欄に任意の文字を入力します。

* BrightSignはプロトコル表を準備していません。トリガーはBrightAuthorで任意の文字を設定できます。

BrightSign本体からシリアル信号を送る場合はSerial Input Eventウィンドウの『Advanced > Add Command > Send』より設定します。またはプレイリストのコンテンツをダブルクリックしてMedia Propertiesウィンドウからも設定できます。





UDP制御の設定

UDPの設定

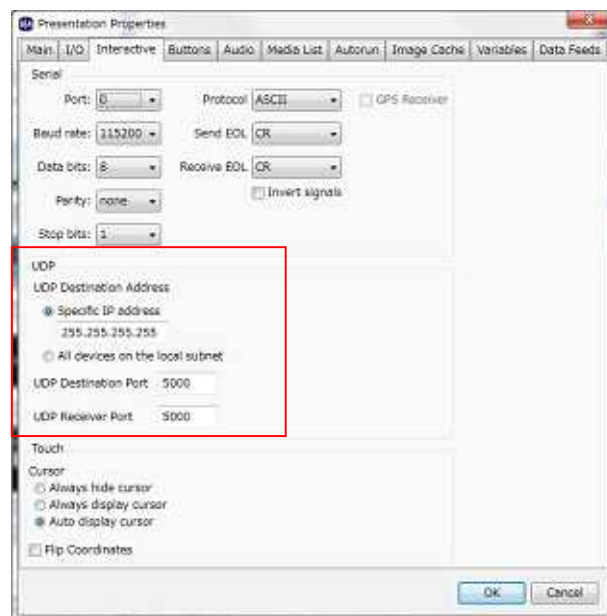
UDPの初期設定

BrightAuthorのメニューより、『File > Presentation Properties > Interactive』 Presentation Propertiesウィンドウを開きます。この項目でUDPの初期設定を行います。設定完了後OKをクリックしPresentation Propertiesウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面からUDPの信号を受けて4つの映像に分岐しています。UDPイベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋がります。UDP Input Eventウィンドウが開きますので、Specify UDP inputの欄に任意の文字を入力します。

* BrightSignをネットワーク機器と接続することで、PC以外の端末（iPhone,iPad等）で操作ができます。





GPIO制御の設定

GPIOの設定

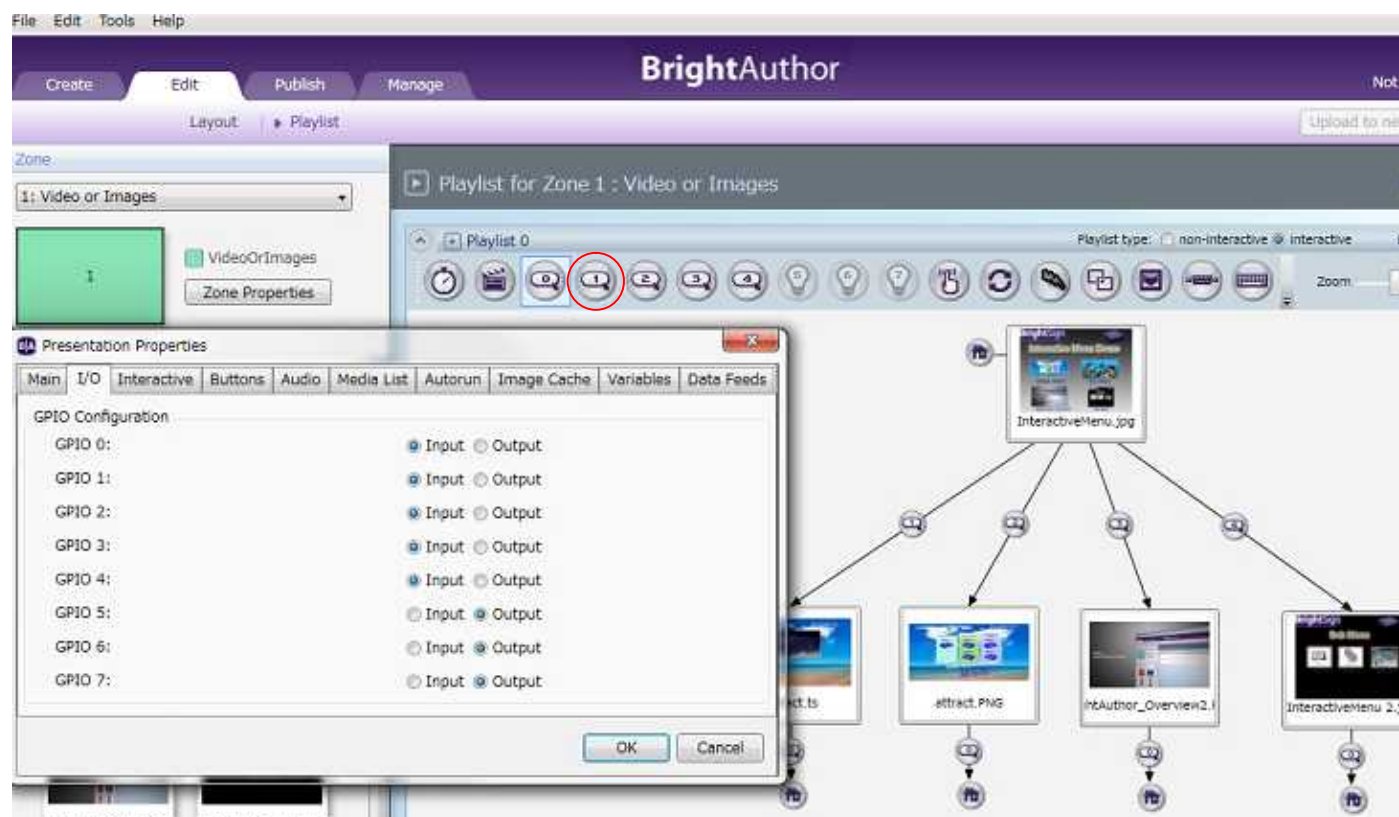
GPIOのInput/Outputの設定

BrightAuthorのメニューより、『File > Presentation Properties > I/O』 Presentation Propertiesウィンドウを開きます。この項目でGPIOのInput/Outputの設定を行います。設定完了後OKをクリックしPresentation Propertiesウィンドウを閉じます。

プレイリストの作成

右の図では待機画面からGPIOの信号を受けて4つの映像に分岐しています。使用するGPIOイベントをクリックし、待機の画面からコンテンツまで繋がります。Outputの設定はGPIOイベントがコンテンツファイルをダブルクリックし、Eventウィンドウを開きます。

『Advanced > Add Command > GPIO > On』より設定します。





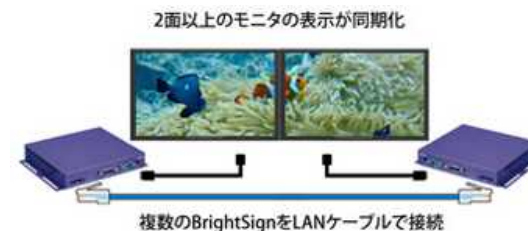
同期再生 (Synchronization)

同期再生（Synchronization）

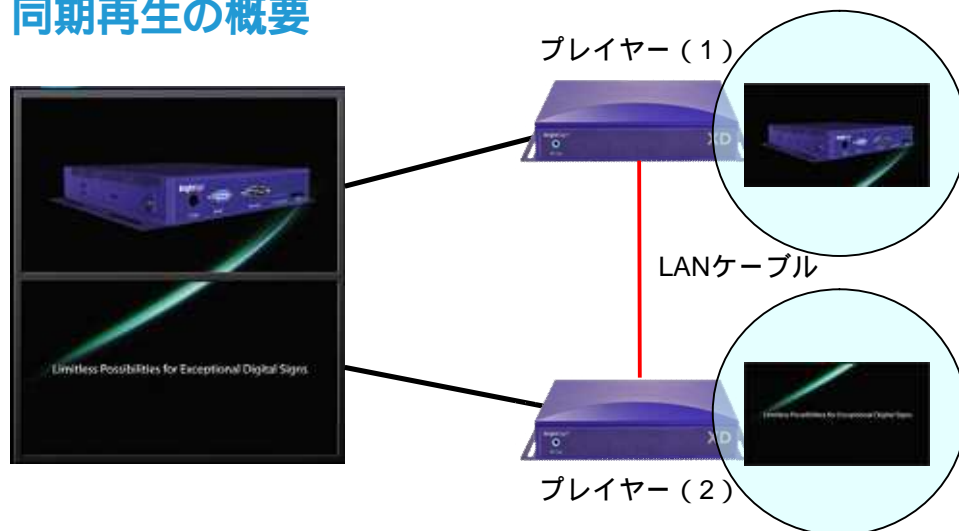
はじめに

複数のBrightSignをLANケーブルで接続して再生を同期化し、複数のモニターの映像が繋がった一つの映像であるように表示できます。2台のBrightSignを接続する場合はLANケーブルで直接接続し、3台以上接続する場合はHubを使用して接続します。

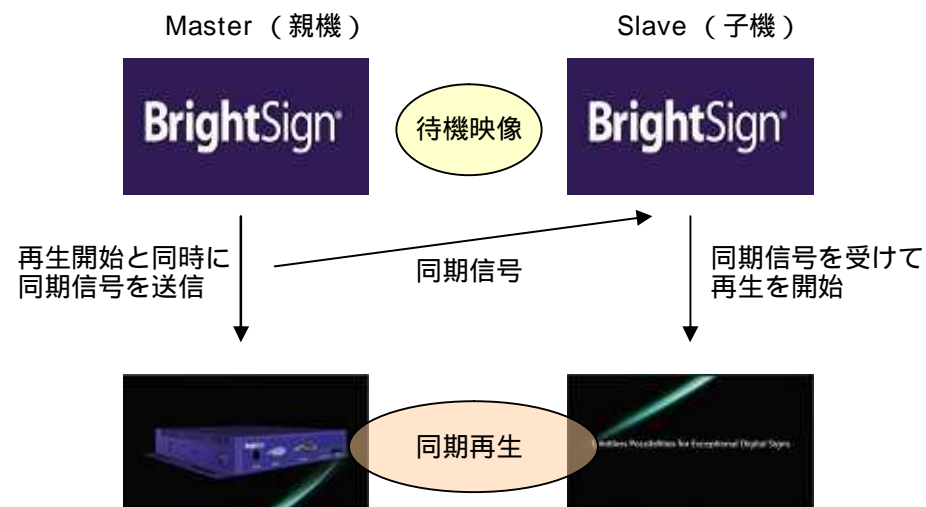
* 同期再生対応機種：HD220、HD1020、XD230、XD1030、XD1230、HD210、HD1010



同期再生の概要



同期再生の際に、複数のモニターで一つの繋がった映像のように表現する場合は、分割された映像素材を用意する必要があります。上図の例では、縦2画面にまたがって映像を表示するために上半分の映像と下半分の映像を作成し、プレイヤー（1）のSDカードには上半分の映像素材を、プレイヤー（2）のSDカードには下半分の映像素材を保存して同期再生させます。



同期再生では1台のプレイヤーをMaster（親機）に、他のプレイヤーをSlave（子機）にして再生を行います。Masterとなるプレイヤーは再生開始と同時にネットワーク経由で同期信号を送り、Slaveとなるプレイヤーは同期信号を受けて再生を開始します。BrightSignの同期再生は、再生開始のタイミングを合わせる“同時再生”とも言えますが、同期のズレは最大1.5フレーム以内 となります。

メーカー推奨のフォーマット（解像度、ビットレート等）の素材の場合

BrightSign®

同期再生の設定例

1 初期設定

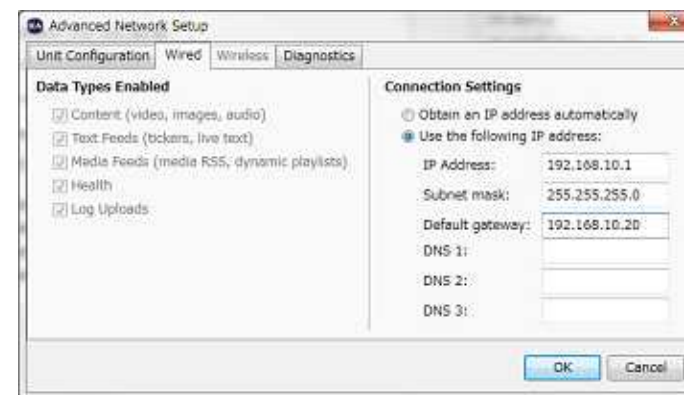
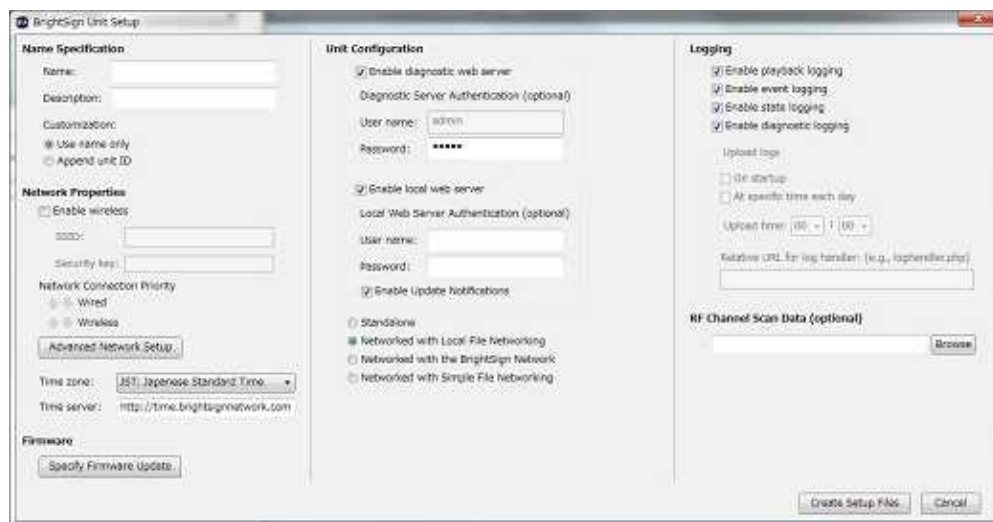
同期再生をする場合にはBrightSign本体に異なるIPアドレスを設定する必要があります。同期再生のIPアドレスの設定例を簡単にご案内します。

a Master unitのIPアドレス設定例

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setupウィンドウが開きます。
2. Name Specification : (オプション)
 - a NameとDescription欄に任意の文字を入力します。
 - b Customization
 - ・ Use name only : Name Specificationで設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specificationで設定した名前とBrightSign本体のIDを表示
3. Network Properties : (オプション)
 - ・ Enable Wireless : BrightSignのWirelessモデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* BrightSignのWirelessモデルは国内では取扱がありません。
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択 (JST : Japanese Standard Time)
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定 (変更がなければデフォルトのまま)
4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。(オプション)
 - ・ Wired : BrightSign本体にIP addressを設定します。Wiredタブをクリックし、Use the following IP addressにチェックを入れます。下記はIPアドレスの設定例になります。* Data Types EnabledはWirelessを選択したときのみ選択できます。

例) IP Address : 192.168.10.1
Subnet mask : 255.255.255.0
Default gateway : 192.168.10.20

5. ファームウェアを更新する場合はSpecify Firmware Updateをクリックし、ファームウェアを選択します。(オプション)
6. Standaloneにチェックを入れます。



b Setup BrightSign Unitの保存

1. Create Setup Filesを選択します。
2. フォルダー、SDカード、USBフラッシュドライブ (BS/XD1030、BS/XD1230、BS/HD1020、BS/HD810、BS/HD1010) のいずれかを選択します。
3. b-2 選択後OKをクリックします。
4. 電源アダプターを抜いて、BrightSign本体の電源をオフにします。BrightSign本体にb-3 で保存したSDカードまたはフラッシュデバイスを接続します。
5. 電源アダプターを接続して、BrightSign本体の電源をオンにします。
6. Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後SDカードを抜きます。

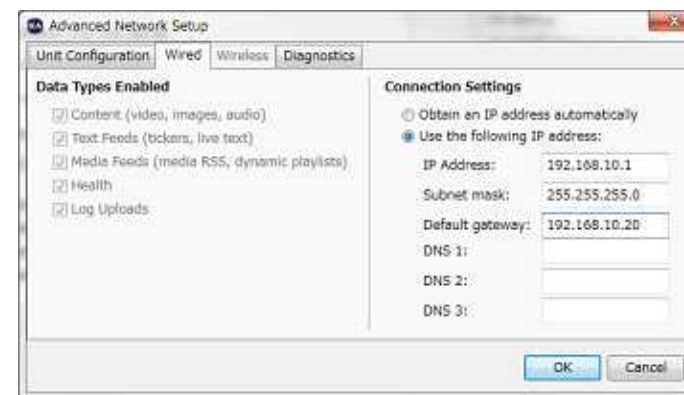
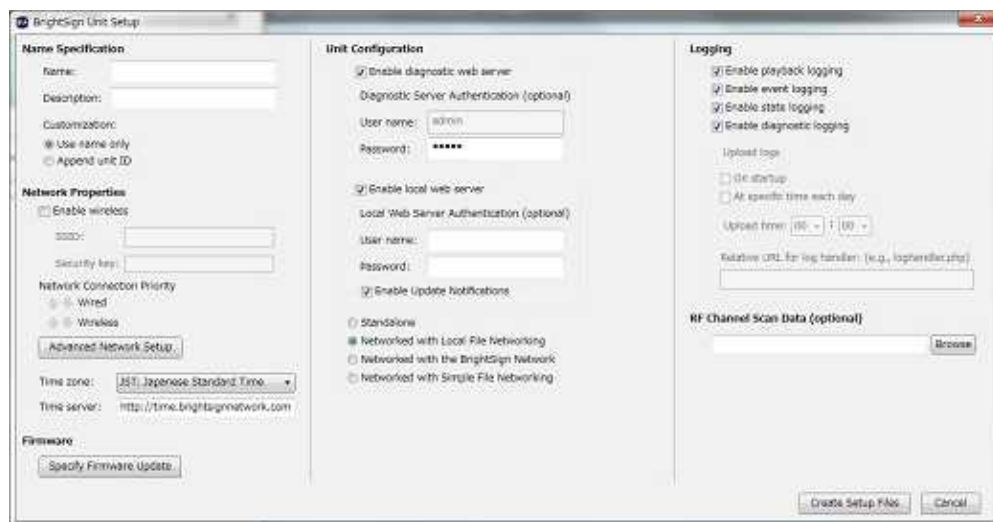
NOTE : オプションと記載のある項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

c Slave unitのIPアドレス設定例

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setupウィンドウが開きます。
2. Name Specification : (オプション)
 - a NameとDescription欄に任意の文字を入力します。
 - b Customization
 - ・ Use name only : Name Specificationで設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specificationで設定した名前とBrightSign本体のIDを表示
3. Network Properties : (オプション)
 - ・ Enable Wireless : BrightSignのWirelessモデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* BrightSignのWirelessモデルは国内では取扱がありません。
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択 (JST : Japanese Standard Time)
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定 (変更がなければデフォルトのまま)
4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。(オプション)
 - ・ Wired : BrightSign本体にIP addressを設定します。Wiredタブをクリックし、Use the following IP addressにチェックを入れます。下記はIPアドレスの例になります。* Data Types EnabledはWirelessを選択したときのみ選択できます。

例) IP Address : 192.168.10.2
Subnet mask : 255.255.255.0
Default gateway : 192.168.10.20

- * Master unitと異なるIPアドレスを設定してください。複数台Slave unitがある場合は全て異なるIPアドレスを設定します。
5. ファームウェアを更新する場合はSpecify Firmware Updateをクリックし、ファームウェアを選択します。(オプション)
 6. Standaloneにチェックを入れます。



d Setup BrightSign Unitの保存

1. Create Setup Filesを選択します。
2. フォルダー、SDカード、USBフラッシュドライブ (BS/XD1030、BS/XD1230、BS/HD1020、BS/HD810、BS/HD1010) のいずれかを選択します。
3. d-2 選択後OKをクリックします。
4. 電源アダプターを抜いて、BrightSign本体の電源をオフにします。BrightSign本体にd-3 で保存したSDカードまたはフラッシュデバイスを接続します。
5. 電源アダプターを接続して、BrightSign本体の電源をオンにします。
6. Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後SDカードを抜きます。

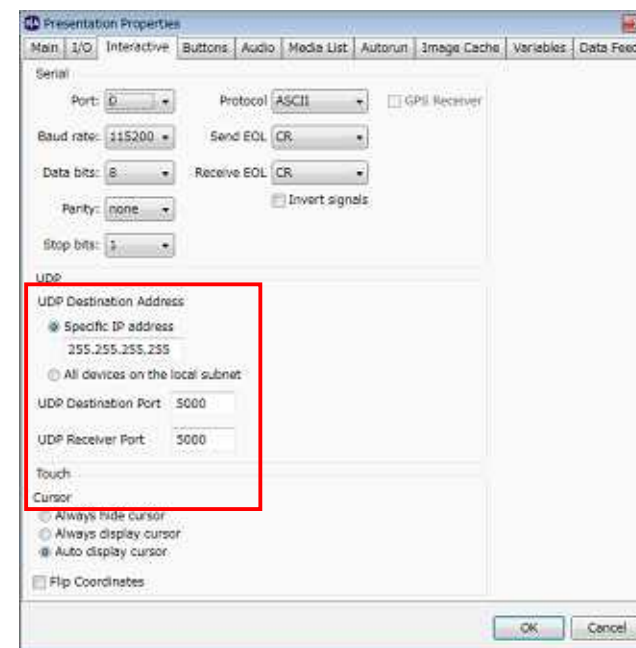
NOTE : オプションと記載のある項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

- e BrightSignをLANケーブル（ストレートケーブル）で接続します。
- f 同期再生をする場合は25Mbps以下のコンテンツを推奨します。
- g 使用する動画は解像度、ビットレート、動画の長さを同じにする必要があります。
- h UDPポートの確認

プレイリスト上でBrightAuthorでポート番号の設定をします。（右図）

File > Presentation Properties > Interactive **タブ** > UDP

BrightAuthorのバージョンにより、デフォルトでポート番号が設定されている場合があります。デフォルトでポート番号が設定されている場合は、そのままの設定で問題ありません。Master unitとSlave unitが同じ設定になっているか確認してください。



2 Master（親機）用プレゼンテーションの作成・保存

Master用プレゼンテーションとSlave用プレゼンテーションは別々に作成する必要があります。本書では2台同期の設定例を説明しておりますので、MasterとSlaveのプレゼンテーションを各1つ作成していますが、3台以上の同期の場合は、Slaveの台数分だけプレゼンテーションを作成する必要があります。

以下の例では2台の同期設定を行います。2台のプレイヤーが静止画を10秒間表示した後に、動画を同期再生し、以後動画をループ再生します。動画再生を同期させるために、黒い静止画を最初に10秒間表示するように設定しています。

（同時に電源投入しても2台のプレイヤーの起動時間に差が生じるため、静止画を表示させることでタイミングを合わせています。）

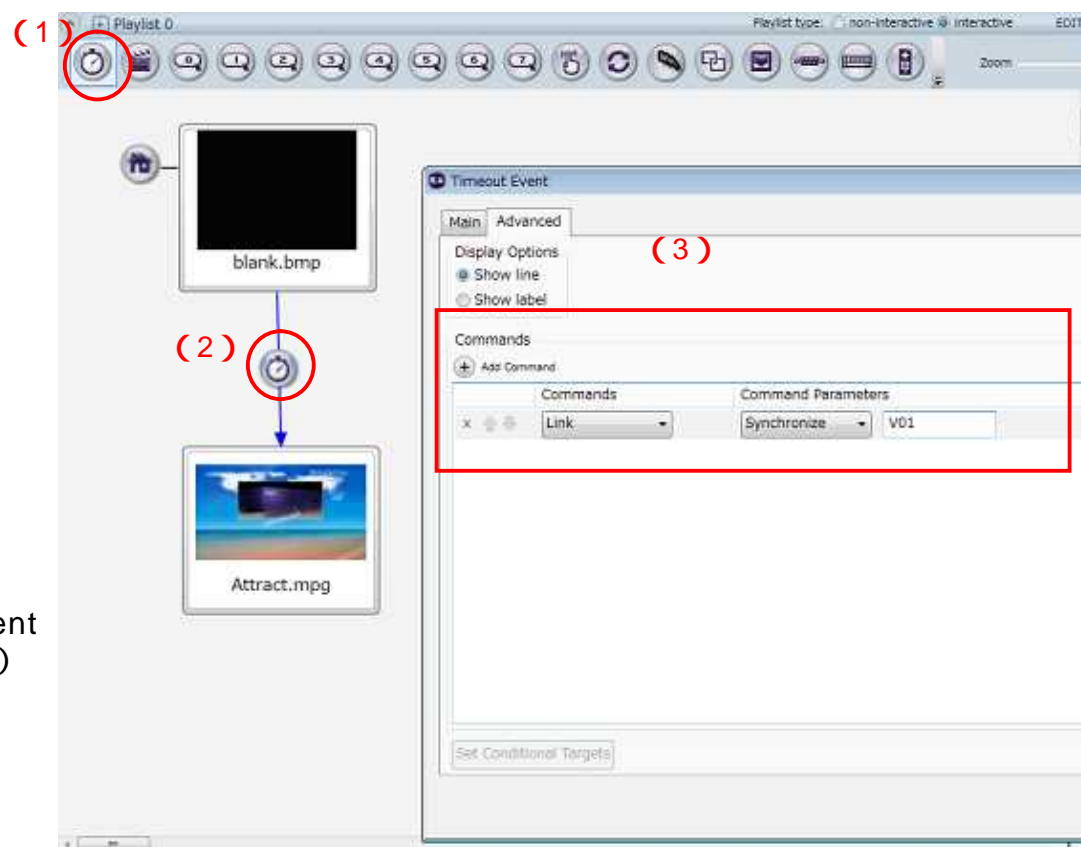
使用イベント  【Time Out】  【Media End】

使用コンテンツ「blank.bmp」、「Attract.mpg」

a 「blank.bmp」の表示時間と同期信号送信の設定をします。

はじめにプレイリストの作成画面でinteractiveにチェックを入れ、プレイリストに「blank.bmp」と「Attract.mpg」を登録します。

- (1) 「blank.bmp」と「Attract.mpg」をTime Out Eventアイコンで繋がします。Time out Eventアイコンをクリックして選択した後、登録した「blank.bmp」のサムネイルのファイル名をクリックしたままにすると、カーソルが指のマークに変化しますので、「Attract.mpg」へドラッグしてクリックを解除します。これで「blank.bmp」と「Attract.mpg」がTime out Eventアイコンで繋がります。
- (2) 「blank.bmp」と「Attract.mpg」を繋ぐTime out Eventアイコンをダブルクリックし、Specify timeout (seconds) に「10」と入力します。（表示時間10秒を設定します。）
- (3) Advancedタブを選択し、+Add Commandをクリックします。CommandsからLink、Synchronizeを選択し、Command Parametersに任意の文字を入力します。ここでは「V01」と入力します。OKをクリックして閉じます。（入力した文字「V01」が同期信号となります。）



b 「Attract.mpg」のループ再生と同期信号送信の設定をします。

(1) eventsタブの中にあるMedia End Eventアイコンを「Attract.mpg」のサムネイルの上へドラッグ&ドロップします。

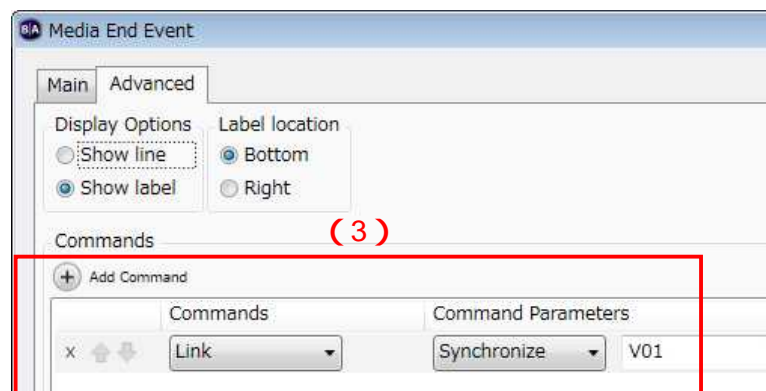
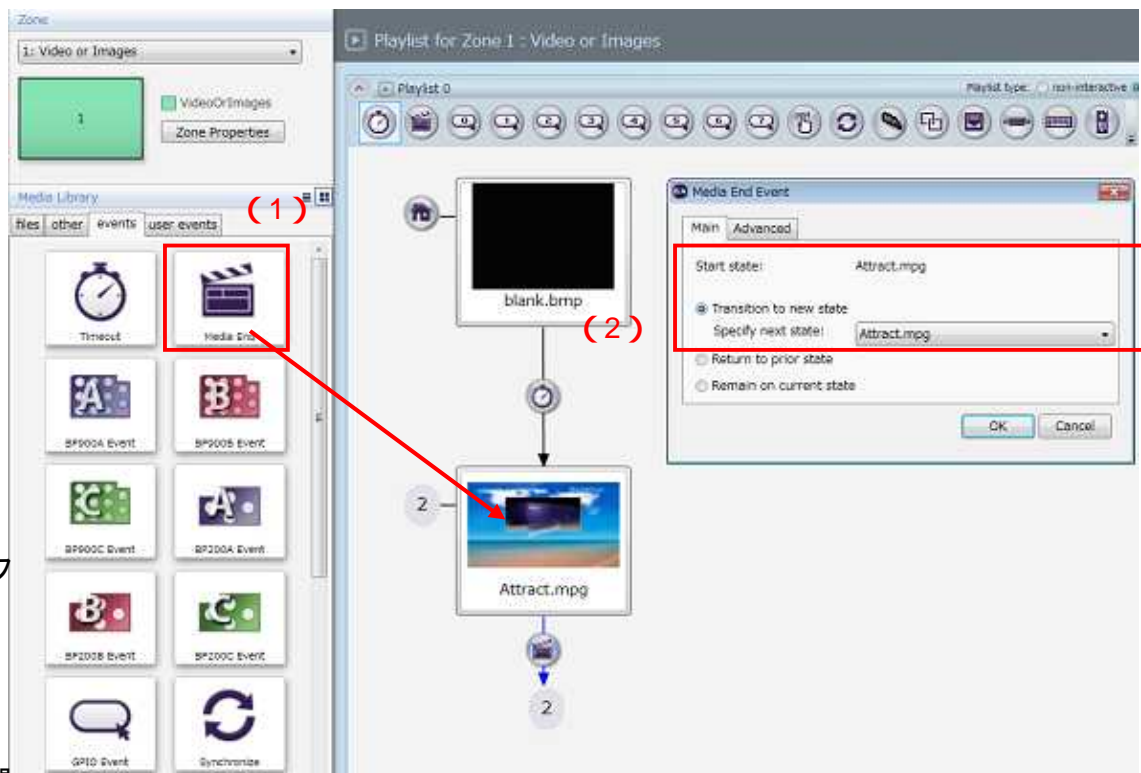
(2) Media End Event設定ウィンドウのMainタブで、Transition to new state Specify next stateにチェックを入れ、選択ボックスから「Attract.mpg」を選択します。

(3) Advancedタブを選択し、+Add Commandをクリックします。CommandsからLink、Synchronizeを選択し、Command Parametersに任意の文字（キーワード）を入力します。ここでは「V01」と入力します。OKをクリックして閉じます。

入力した文字「V01」が同期信号となります。

c プレイリストをSDカードにPublish（書き出し）します。

Publishタブを選択し、Browseで保存先（SDカード）を選択し、PublishボタンをクリックしてSDカードにプレイリストをPublish（書き出し）します。



3 Slave（子機）用プレゼンテーションの作成・保存

Masterから同期信号を受けて再生を開始するSlave用プレゼンテーションを作成します。

使用イベント  【Synchronize】

使用コンテンツ「blank.bmp」、「Attract.mpg」

a Slave用プレゼンテーションを作成します。

プレイリストの作成画面でinteractiveにチェックを入れ、プレイリストに「blank.bmp」「Attract.mpg」を登録します。

(1) 「blank.bmp」と「Attract.mpg」をSynchronize Eventアイコンで繋がします。

(2) Synchronize Event設定ウィンドウが表示されるのでSpecify synchronization keywordに「V01」と入力します。OKをクリックして閉じます。

Master用プレゼンテーションで設定した文字（キーワード）を入力します。

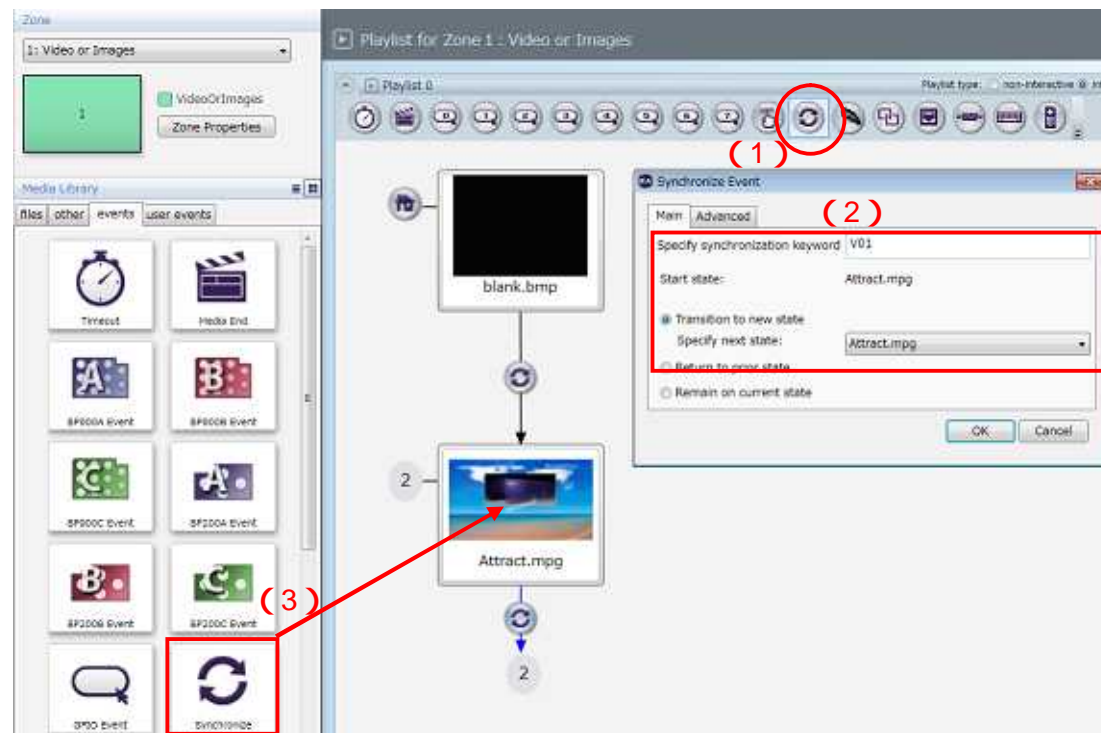
(3) eventsタブの中にあるSynchronize Eventアイコンを「Attract.mpg」のサムネイルの上へドラッグ&ドロップします。

(4) Synchronize Event設定ウィンドウのMainタブでSpecify synchronization keywordに「V01」と入力し、Transition to new state Specify next stateにチェックを入れ、選択ボックスから「Attract.mpg」を選択します。OKをクリックして閉じます。

b Publishタブを選択し、SDカードにプレイリストをPublish（書き出し）します。

4 同期再生の実行

Master用プレゼンテーションが保存されたSDカードをMasterプレイヤーに、Slave用プレゼンテーションが保存されたSDカードをSlaveプレイヤーに接続し、電源を入れます。電源はMaster/Slave同時に入れるか、Slave Masterの順に入れます。Masterプレイヤー起動後、「blank.jpg」を10秒間表示した後、「Attract.mpg」の同期再生が始まります。





IPアドレスの設定

IPアドレスの設定

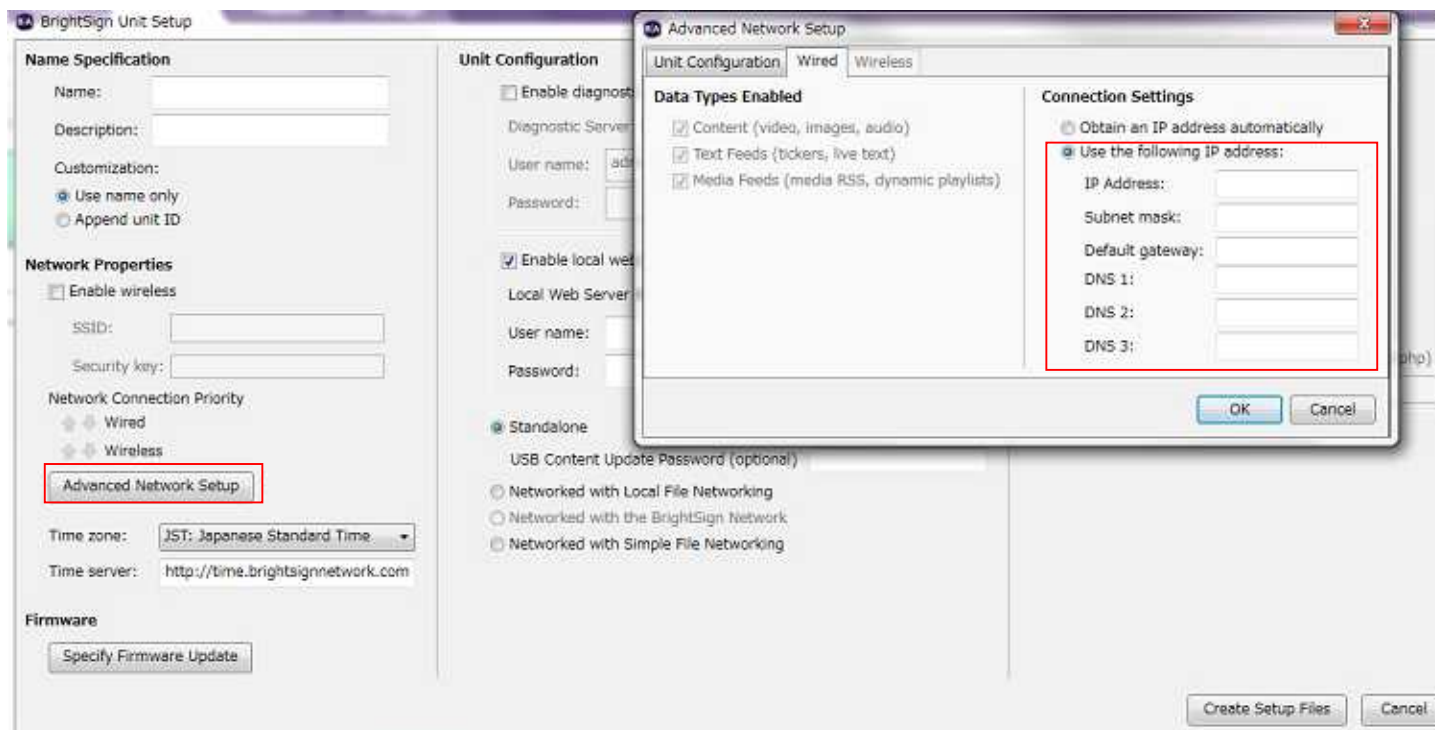
IPアドレス設定

BrightSignは端末にIPアドレスを設定することができます。この機能はネットワーク配信時や同期再生の初期設定にも利用します。

IPアドレスの設定方法

ここではスタンドアロンで利用時のIPアドレスの設定方法をご案内します。

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setupウィンドウが開きます。
2. Name Specification :
 - a NameとDescription欄に任意の文字を入力します。
 - b Customization
 - ・ Use name only : Name Specificationで設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specificationで設定した名前とBrightSign本体のIDを表示
3. Network Properties :
 - ・ Enable Wireless : BrightSignのWirelessモデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* BrightSignのWirelessモデルは国内では取扱がありません。
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定
4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - ・ Wired : BrightSign本体にIP addressを設定します。Wiredタブをクリックし、Use the following IP addressにチェックを入れます。* Data Types EnabledはWirelessを選択したときのみ選択できます。
5. ファームウェアを更新する場合はSpecify Firmware Updateをクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Standaloneにチェックを入れます。



7. Setup BrightSign Unitの保存
 - a Create Setup Filesを選択します。
 - b フォルダー、SDカード、USBフラッシュドライブ (BS/XD1030、BS/XD1230、BS/HD1020、BS/HD810、BS/HD1010) のいずれかを選択します。
 - c 7-b 選択後OKをクリックします。
 - d 電源アダプターを抜いて、BrightSign本体の電源をオフにします。BrightSign本体に7-c で保存したSDカードまたはフラッシュデバイスを接続します。
 - e 電源アダプターを接続して、BrightSign本体の電源をオンにします。
 - f Setup is complete - you may now remove the card とメッセージが表示されますので、メッセージ確認後SDカードを抜きます。

NOTE : 2,3,5の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。



ネットワーク機能の紹介

ネットワークソリューション

ネットワークの種類

BrightSignシリーズのネットワーク対応モデルでは3種類のネットワークソリューションを利用できます。

BrightSign Local File Networking

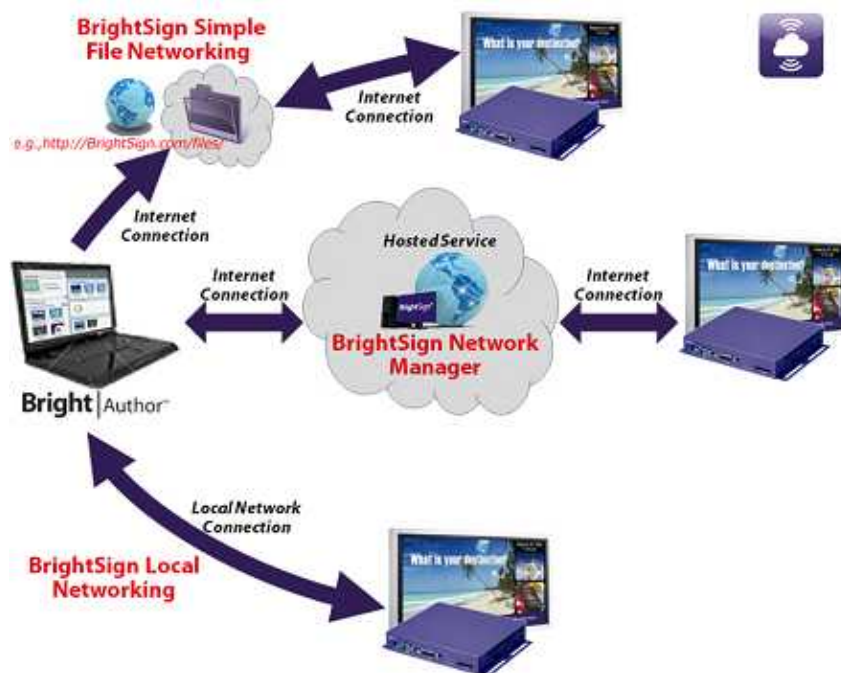
BrightAuthorをインストールしたPCからBrightSignにプッシュでプレゼンテーションを更新できます。BrightAuthorをインストールしたPCとBrightSignがローカルネットワークで接続している環境の場合に使用できます。

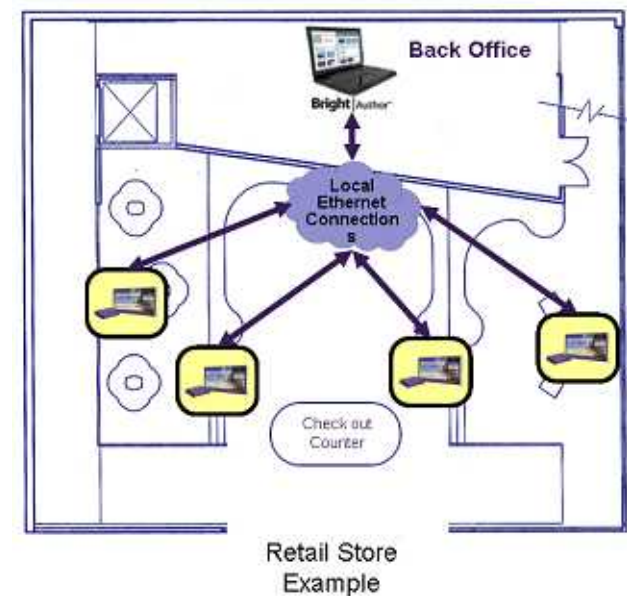
BrightSign Simple File Networking

BrightSignは指定されたWebフォルダーを定期的を確認し更新します。ネットワーク経由でコンテンツを更新する場合に使用できます。
* BrightSignにコンテンツを確認させるWebフォルダーを準備する必要があります。

BrightSign Network Manager

BrightSign社で提供しているホストサーバーを使用するサービスです。有料のサービスになりますので、詳細につきましてはお問い合わせください。





Local File Networkingの設定

Local File Networkingの設定

Local File Network

Local File Networkの機能を使用することにより、BrightAuthorがインストールされているPCからBrightSign本体へネットワーク経由で直接プレゼンテーションをPublish（書き出し）することができます。

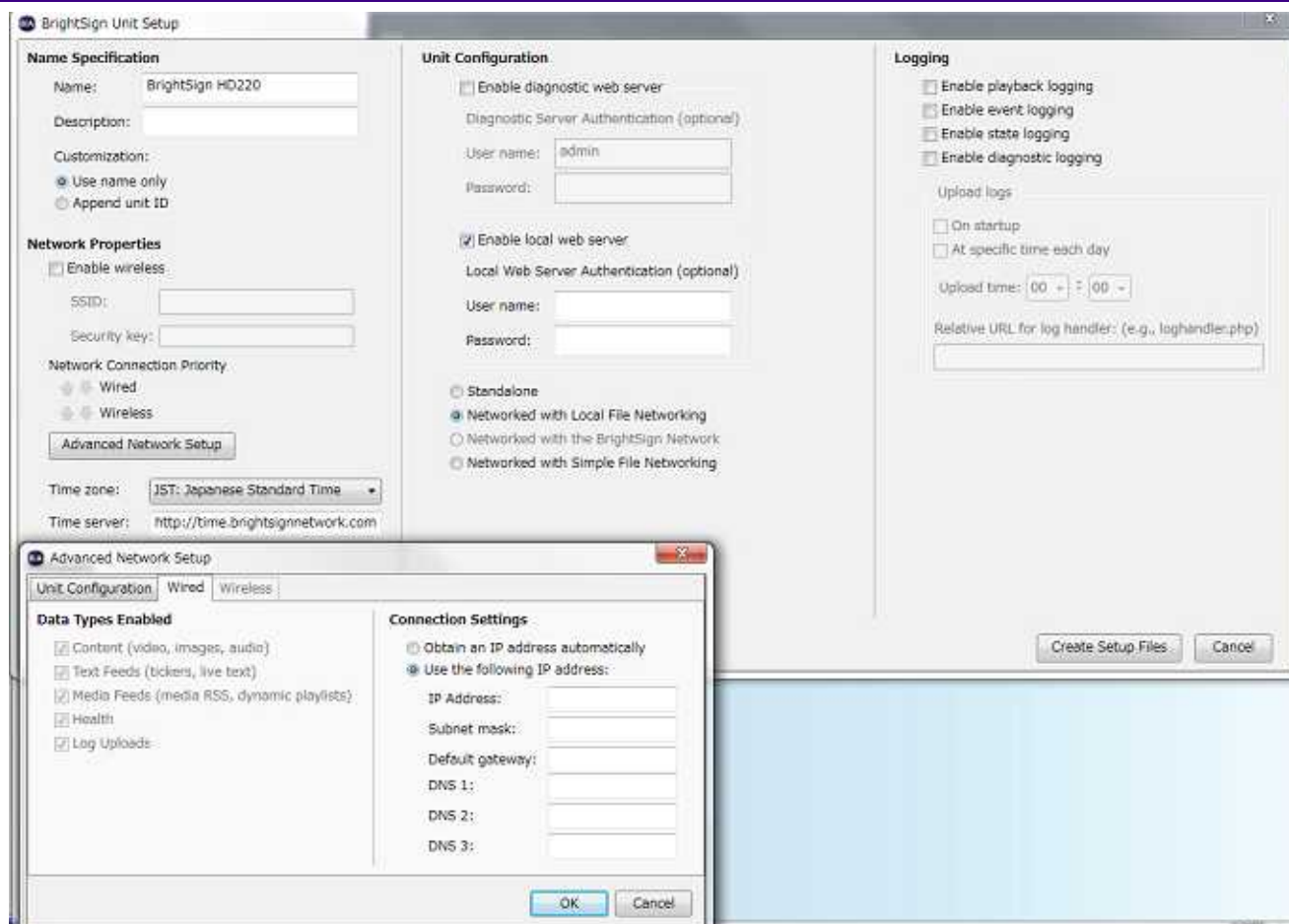
初期設定

BrightAuthorの初期設定では、Local Networkのタブが表示されません。メニューバーから、『Edit > Preferences > Networking』を選択します。Enable BrightSign Local Networkingにチェックを入れます。

* Enable Bonjourにチェックを入れるとPublish画面で自動的にローカルネットワーク上にあるBrightSignを認識します。BonjourはApple社のプロトコルです。（iTunesをインストールすることでBonjourも同時にインストールされます）

BrightSignユニットの登録

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setupウィンドウが開きます。
 2. Name Specification :
 - a NameとDescription欄に任意の文字を入力します。
 - b Customization
 - ・ Use name only : Name Specificationで設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specificationで設定した名前とBrightSign本体のIDを表示
 3. Network Properties :
 - ・ Enable Wireless : BrightSignのWirelessモデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* BrightSignのWirelessモデルは国内では取扱がありません。
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定
 4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - ・ Wired : BrightSign本体にIP addressを設定します。Wiredタブをクリックし、IP addressを自動設定するにはObtain an IP address automatically、任意に設定するにはUse the following IP addressにチェックを入れます。
- * Data Types EnabledはWirelessを選択したときのみ選択できます。



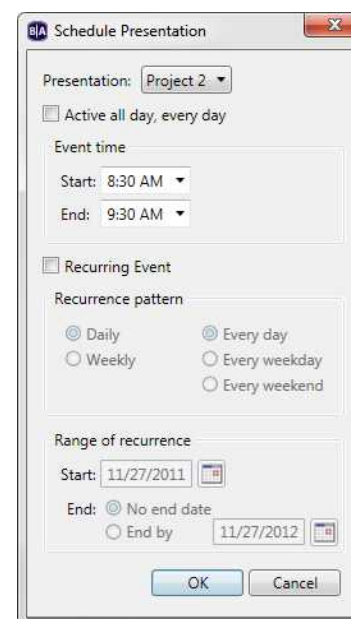
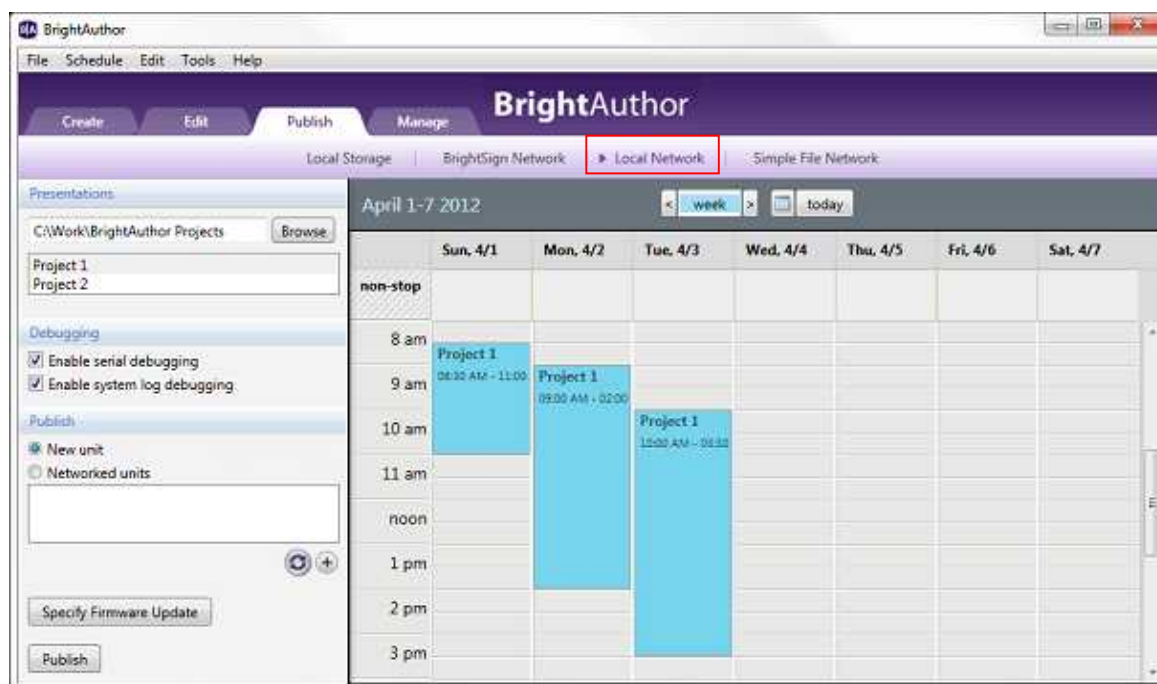
5. ファームウェアを更新する場合はSpecify Firmware Updateをクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Unit Configuration :
 - a Enable diagnostic web server : diagnosticを有効にします。パスワードを設定することができます。
 - b Enable local web server : チェックを入れるとパスワード設定することができます。
7. Networked with Local File Networkingにチェックを入れます。
8. Logging : Loggingを有効にするにはチェックボックスのいずれかにチェックをし、アップロード設定を指定します。
 - a Enable playback logging : プレイリストが再生された際にログを作成します。
 - b Enable event logging : イベントのログを作成します。
 - c Enable state logging : プレイヤー情報のログを作成します。
 - d Enable diagnostic logging : トラブルシューティング情報のログを作成します。

9. Setup BrightSign Unitの保存
 - a Create Setup Filesを選択します。
 - b フォルダー、SDカード、USBフラッシュドライブ (BS/XD1030、BS/XD1230、BS/HD1020、BS/HD810、BS/HD1010) のいずれかを選択します。
 - c 9-b 選択後OKをクリックします。
 - d 電源アダプターを抜いて、BrightSign本体の電源をオフにします。BrightSign本体に9-c で保存したSDカードまたはフラッシュデバイスを接続します。
 - e 電源アダプターを接続して、BrightSign本体の電源をオンにします。
- * 設定後、SDカードまたはフラッシュカードはBrightSign本体から抜かないでください。SDカードまたはフラッシュカードを抜くとBrightAuthorからPublish(書き出し)したプレゼンテーションファイルを保存できません。

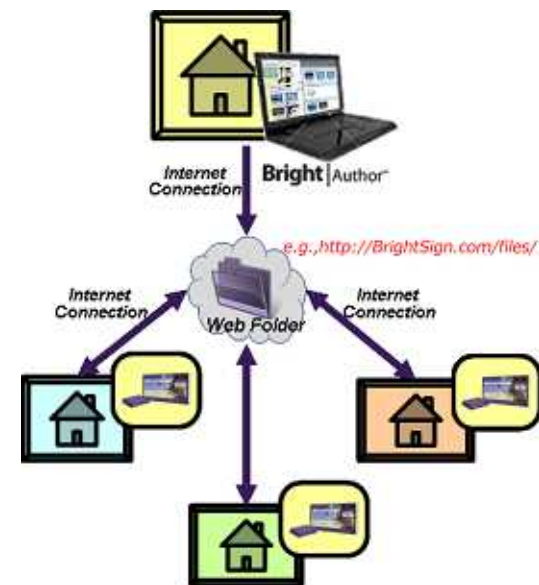
NOTE : 5,6,8の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

プレゼンテーションのPublish (書き出し)

Editタブで作成したプレゼンテーションをBrightSignユニットにPublish (書き出し) します。



1. プレゼンテーションファイルを保存します。File > Save... As.
2. Publishタブへ移動します。
 - a 画面左上のPublishタブを選択します。
 - b Local Networkを選択します。
 - c Presentationの下 Browseを選択し、プレゼンテーションが保存されているフォルダーを選択します。
3. Publishするプレゼンテーションのスケジュールを作成します。
 - a 保存されているPresentationのリストから、Presentationを選択します。
 - b Presentationをスケジュール欄にドラッグします。
 - c スケジュール欄をダブルクリックして、1日のスケジュールを調整します。スケジュール欄をダブルクリックすると、Schedule Presentationウィンドウが開きます。ここではプレゼンテーションを再生する日時を設定します。
 - d OKを選択するとスケジュール欄に設定した内容が反映されます。
 - e 他のプレゼンテーションを設定する場合はb-dの作業を繰り返します。
4. Debugging、Log、Firmwareの設定。この項目は必要な場合のみ使用します。
5. プレゼンテーションをPublishする。
 - a Publishの下項目でPublish先を選択します。
 - ・新しいBrightSignを追加するには、New unitを選択します。+ ボタンをクリックするとAdd BrightSign Unitウィンドウが開きます。追加するBrightSignのIPアドレスを入力し、OKをクリックします。
 - ・すでにBrightSignが追加されている場合は、Networked unitを選択しリストからPublishする端末を選びます。
 - b Publishをクリックします。Completeウィンドウが表示されたらOKをクリックします。



Simple File Networkingの設定

Simple File Networkingの設定

Simple File Network

ネットワーク経由でコンテンツを更新する場合に使用します。BrightSignは指定されたWebフォルダーを定期的に確認し更新します。

* BrightSignにコンテンツを確認させるWebフォルダーを準備する必要があります。

BrightSignユニットの登録

1. メニューバーから、『Tools > Setup BrightSign Unit』を選択すると、BrightSign Unit Setupウィンドウが開きます。
 2. Name Specification :
 - a NameとDescription欄に任意の文字を入力します。
 - b Customization
 - ・ Use name only : Name Specificationで設定した名前のみ表示
 - ・ Append unit ID : Name Specificationで設定した名前とBrightSign本体のIDを表示
 3. Network Properties :
 - ・ Enable Wireless : BrightSignのWirelessモデルを使用する場合にチェックボックスをオンにします。
* BrightSignのWirelessモデルは国内では取扱がありません。
 - ・ Time zone : タイムゾーンの選択
 - ・ Time server : タイムサーバーの設定
 4. Advanced Network Setup :
 - ・ Unit Configuration : プロキシサーバーを使用する場合はチェックボックスをオンにし、アドレスとポート番号を入力します。
 - ・ Wired : BrightSign本体にIP addressを設定します。Wiredタブをクリックし、IP addressを自動設定するにはObtain an IP address automatically、任意に設定するにはUse the following IP addressにチェックを入れます。
- * Data Types EnabledはWirelessを選択したときのみ選択できます。

5. ファームウェアを更新する場合はSpecify Firmware Updateをクリックし、ファームウェアを選択します。
6. Unit Configuration :
 - a Enable diagnostic web server : diagnosticを有効にします。パスワードを設定することができます。
 - b Enable local web server : チェックを入れるとパスワード設定することができます。
7. Networked with Simple File Networkingにチェックを入れます。URL for web folder: にBrightSignがプロジェクトを確認するWebフォルダーのURLを記入します。Content Check Frequency: でWebフォルダーを確認するタイミングを設定します。
8. Logging : Loggingを有効にするにはチェックボックスのいずれかにチェックをし、アップロード設定を指定します。
 - a Enable playback logging : プレイリストが再生された際にログを作成します。
 - b Enable event logging : イベントのログを作成します。
 - c Enable state logging : プレイヤー情報のログを作成します。
 - d Enable diagnostic logging : トラブルシューティング情報のログを作成します。

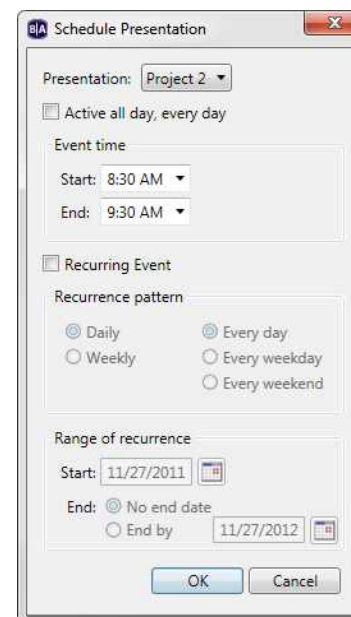
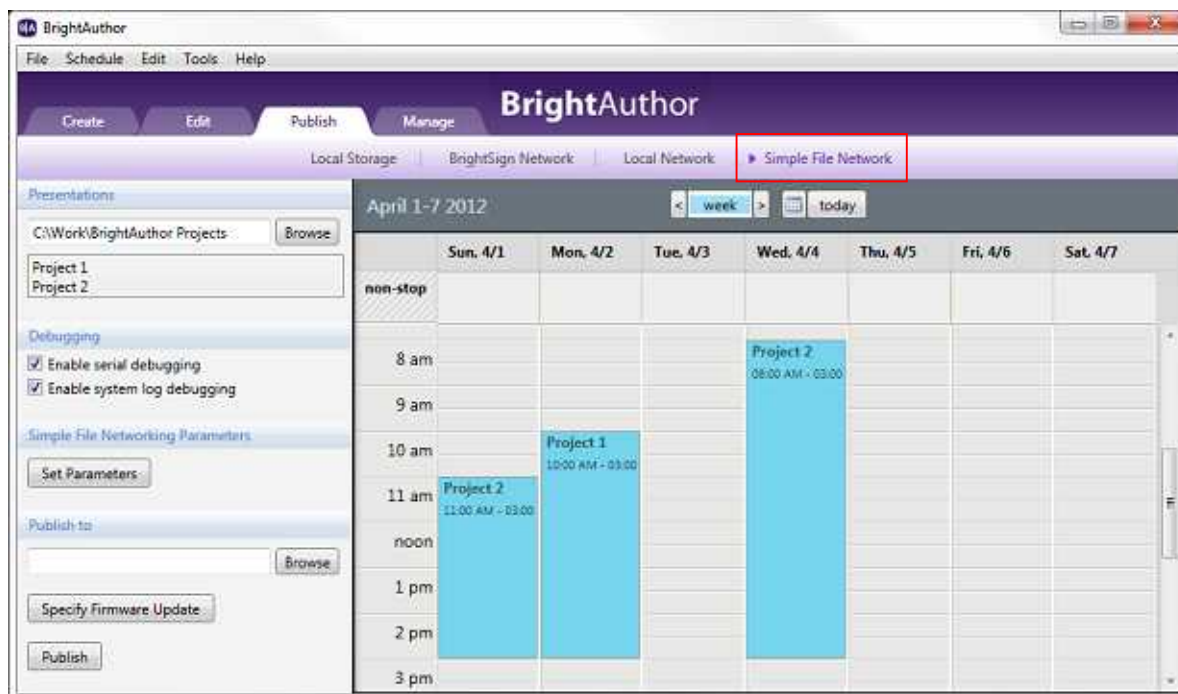
9. Setup BrightSign Unitの保存
 - a Create Setup Filesを選択します。
 - b フォルダー、SDカード、USBフラッシュドライブ (BS/XD1030、BS/XD1230、BS/HD1020、BS/HD810、BS/HD1010) のいずれかを選択します。
 - c 9-b 選択後OKをクリックします。
 - d 電源アダプターを抜いて、BrightSign本体の電源をオフにします。BrightSign本体に9-c で保存したSDカードまたはフラッシュデバイスを接続します。
 - e 電源アダプターを接続して、BrightSign本体の電源をオンにします。

* 設定後、SDカードまたはフラッシュカードはBrightSign本体から抜かないでください。SDカードまたはフラッシュカードを抜くとプレゼンテーションファイルをダウンロードできません。

NOTE : 2,4,5,6,8の項目は必須ではありません。必要に応じて設定してください。

プレゼンテーションのPublish (書き出し)

Editタブで作成したプレゼンテーションをPublish (書き出し) します。



1. プレゼンテーションファイルを保存します。File > Save... As.
2. Publishタブへ移動します。
 - a 画面左上のPublishタブを選択します。
 - b Simple File Networkを選択します。
 - c Presentationの下 Browseを選択し、プレゼンテーションが保存されているフォルダーを選択します。
3. Publishするプレゼンテーションのスケジュールを作成します。
 - a 保存されているPresentationのリストから、Presentationを選択します。
 - b Presentationをスケジュール欄にドラッグします。
 - c スケジュール欄をダブルクリックして、1日のスケジュールを調整します。スケジュール欄をダブルクリックすると、Schedule Presentationウィンドウが開きます。ここではプレゼンテーションを再生する日時を設定します。
 - d OKを選択するとスケジュール欄に設定した内容が反映されます。
 - e 他のプレゼンテーションを設定する場合はb-dの作業を繰り返します。
4. Debugging、Log、Firmwareの設定。この項目は必要な場合のみ使用します。
5. プレゼンテーションをPublishする。
 - a Publish toのBrowseからPublish先を選択します。
 - b Publishをクリックします。Completeウィンドウが表示されたらOKをクリックします。

NOTE : Webフォルダーにファイルを転送する場合は、お使いのPC上のフォルダーにPublishしFTPソフトウェアなどを使用しアップロードする必要があります。



コンテンツファイルの変更

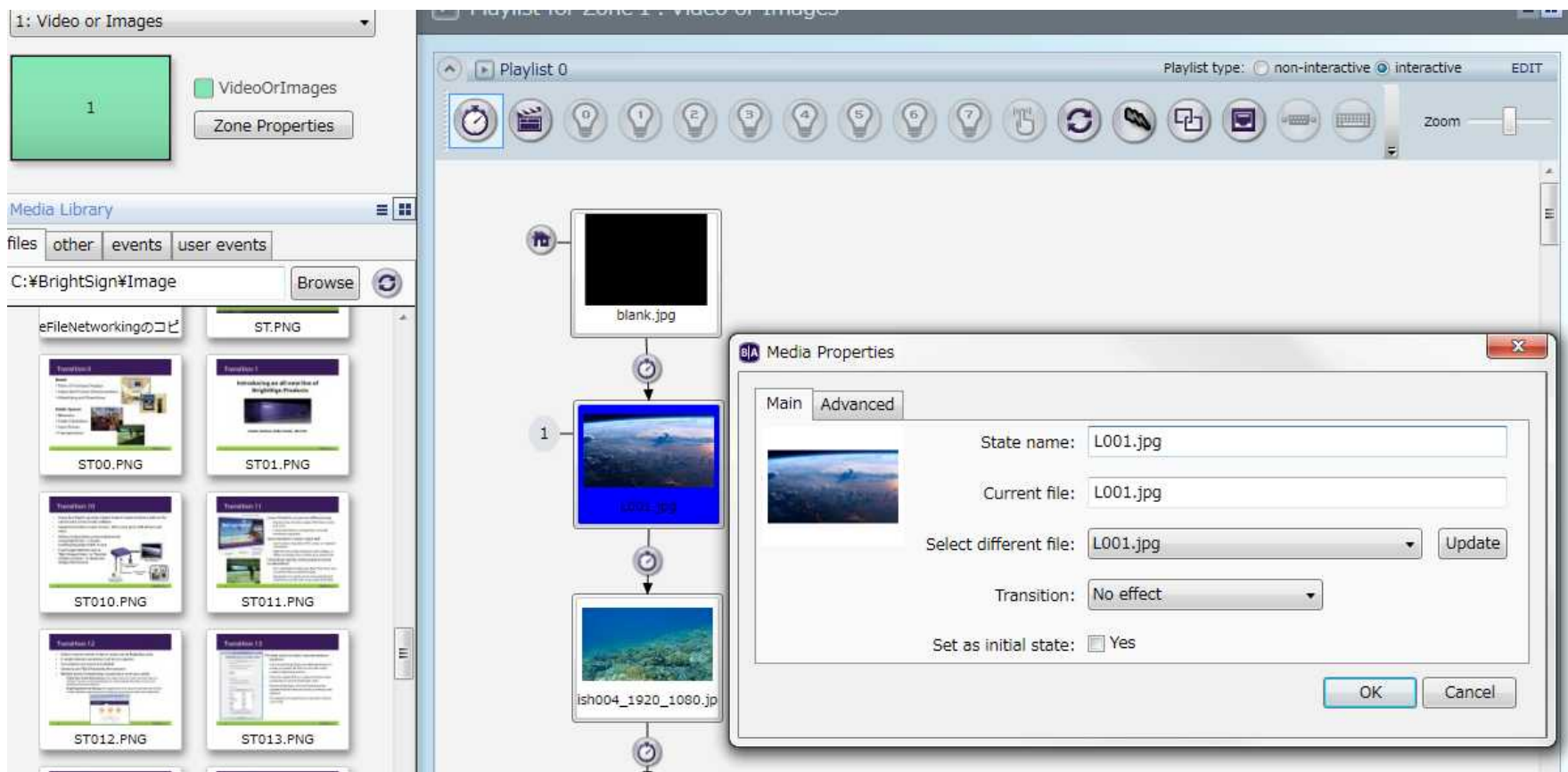
コンテンツファイルの変更

コンテンツファイルの変更

BrightAuthorで作成したプレイリストの設定を変更せずにコンテンツだけを変更することができます。

コンテンツファイルの変更例

プレイリスト上のコンテンツファイルをダブルクリックすると、Media Propertiesウィンドウが開きます。Select different fileから変更するコンテンツを選び、Updateボタンをクリックします。Select different fileにはMedia Libraryで選択されているフォルダー内のコンテンツを表示します。





HTML5の設定

HTML5の設定

HTML5の表示

BrightSign XDシリーズではHTML(5)を表示することができます。この機能を利用することで、Webページをサイネージコンテンツとして表示することができます。

* BrightSign XDシリーズは汎用のWebブラウザとして使用するように設計されていません。多くのWebページがBrightSign XDシリーズで正しく表示できない要素があります。FlashコンテンツやYouTubeなどのHTMLのページに埋め込まれた映像コンテンツは表示できません。BrightSign XDシリーズでWebページをサイネージとして利用する場合は事前に実機での検証が必要です。HTML5の詳細につきましては、下記をご参照ください。

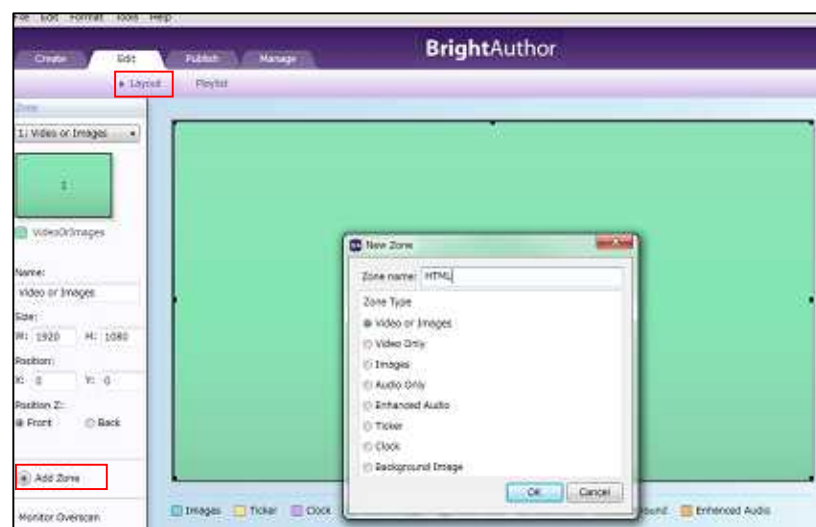
[HTML5 USER GUIDE](#)

プレイリストの作成

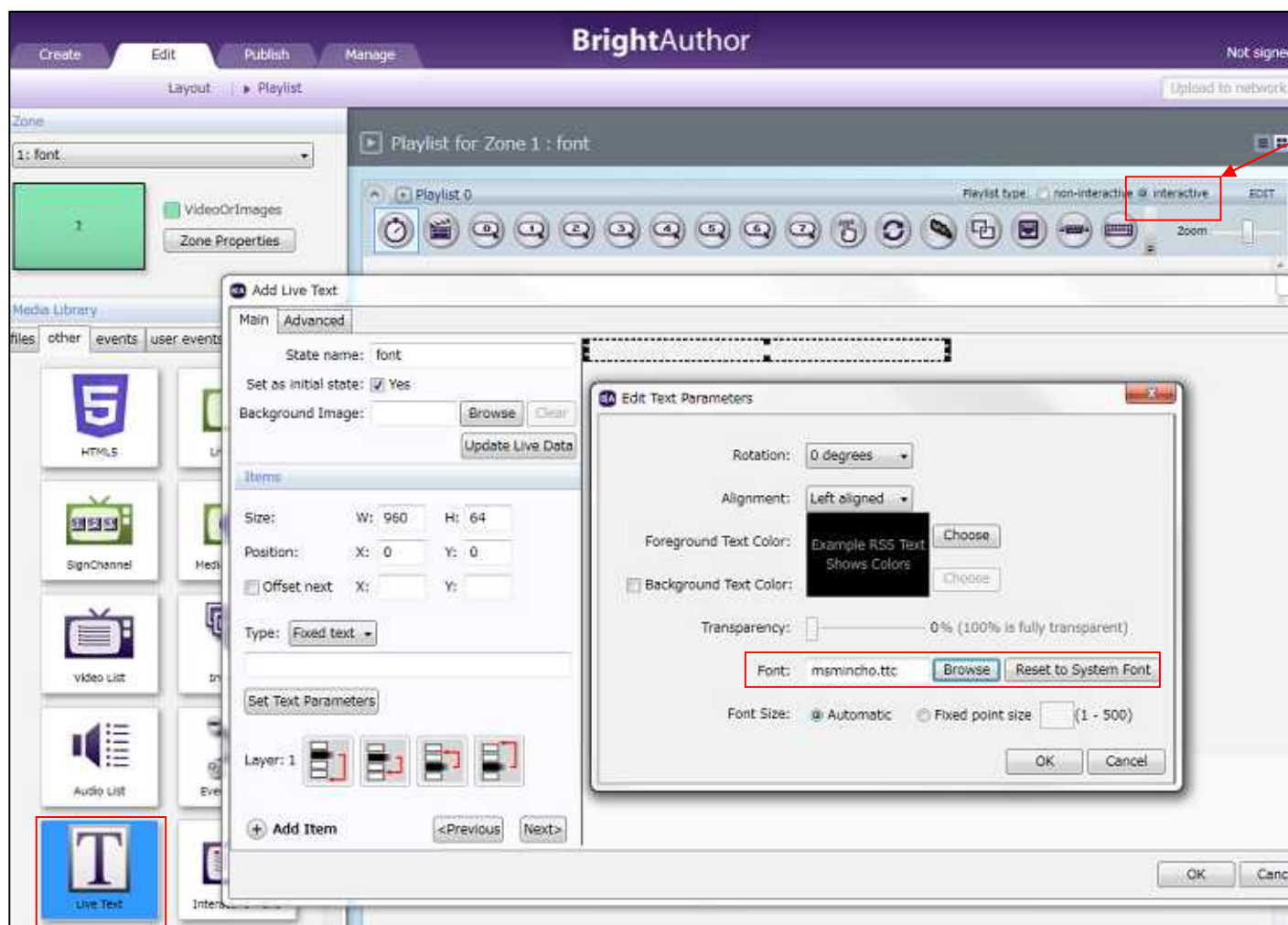
BrightSignでWebページを表示をすると日本語フォントが文字化けして表示されます。日本語フォントを表示させるにはフォントを指定する必要があります。

Layoutタブに移動しゾーンの設定をします。ここでは、Video or Imagesのゾーンを2つ作成します。1つをHTML用のゾーンとしZone nameをHTMLとします。もう1つをフォント用のゾーンとして、Zone nameをfontとします。ゾーンの追加は+ Add Zoneをクリックし、新規のZoneを作成します。Zone nameの変更はZoneプルダウンメニューでゾーンを選択し、Name:に入力します。

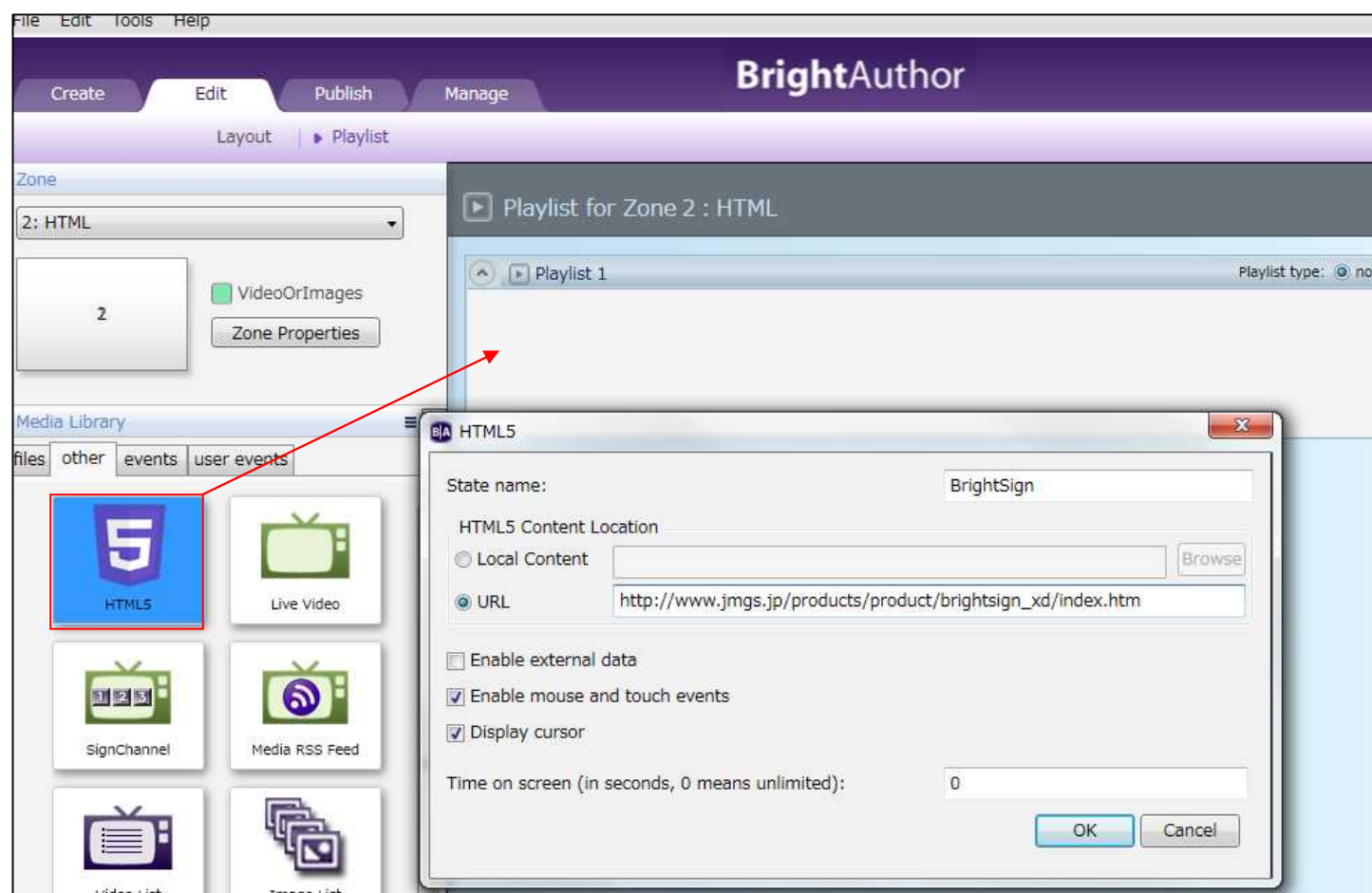
* ゾーン追加時でもNew ZoneのウィンドウでZone nameの入力ができます。設定後、Playlistへ戻りプレイリストを作成します。



1:fontのゾーンのプレイリストをinteractiveに変更します。変更後Live Textをプレイリストにドラッグすると、Add Live Textウィンドウが開きます。State name:に任意の文字を入力しSet as initial state:にチェックを入れます。Set Text Parametersボタンをクリックすると、Edit Text Parametersウィンドウが開きます。Font:の項目でBrowseよりフォントを指定します。*フォントはメーカーでは準備しておりません。設定完了後OKをクリックし、Add Live TextウィンドウもOKをクリックしウィンドウを閉じます。



2:HTMLのゾーンのプレイリストを選択します。HTML5のアイコンをPlaylist:1にドラッグをします。HTML5ウィンドウが開きますので、State nameに任意の名前を入力します。URLの欄に表示させてアドレスを入力します。マウス操作をする場合はEnable mouse and touch eventsにチェックをし、マウスカーソルを表示するにはDisplay cursorにチェックを入れます。設定終了後OKをクリックしウィンドウを閉じます。





HDMI入力の設定

HDMI入力の設定

HDMI入力について

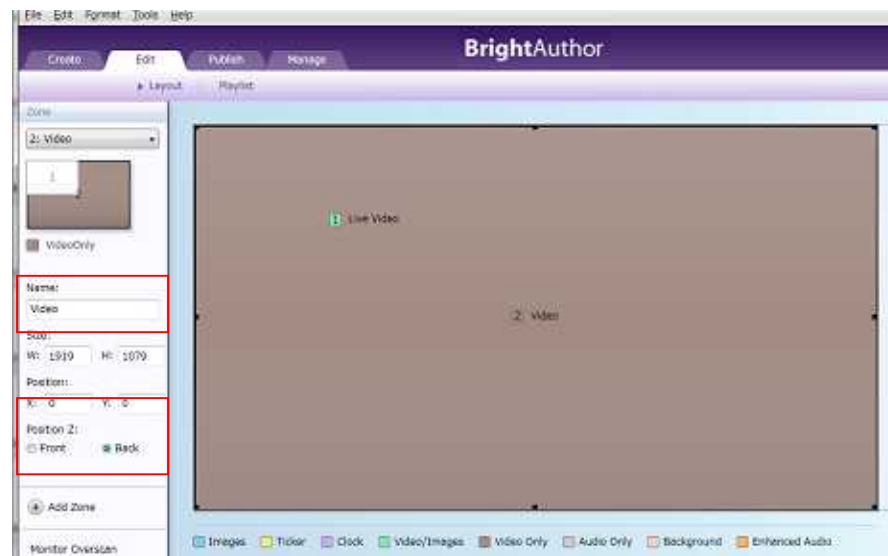
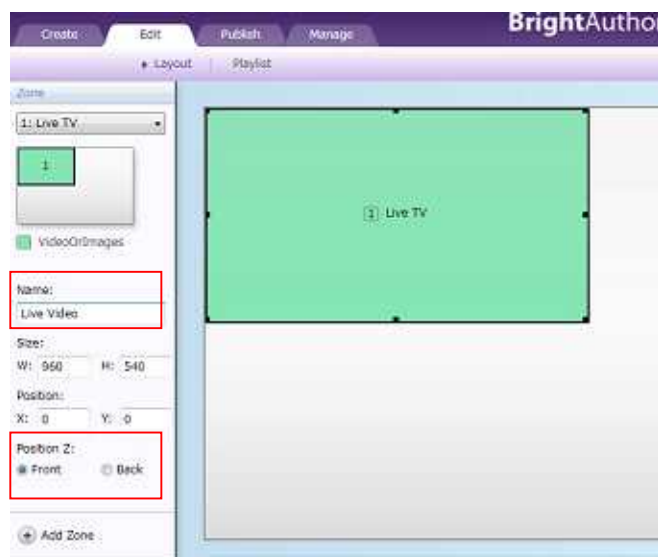
XD1230を使用することで、HDMIの入力信号を表示することができます。HDCPに対応しており、テレビをフルスクリーンで表示させるだけでなく、動画の上にテレビを表示させるなど様々な表示方法ができます。

* 静止画の上にHDMI入力を表示することはできません。今後のファームウェアのアップデートで対応予定です。

動画ファイルの上にHDMI入力を表示・レイアウトの編集

EditタブのLayoutを選択し、HDMI入力を表示するゾーンを設定します。Name: は自由に設定できますので、ここではLive Videoと入力します。またPositionがFrontになっていることを確認してください。次に+Add Zoneをクリックし、Video Onlyを選択します。

Name: は同様に自由に設定できます。ここではNameをVideoと入力します。PositionがBackになっていることを確認してください。



HDMI入力の設定

動画ファイルの上にHDMI入力を表示・プレイリストの編集

Layoutでゾーンの追加の後にPlaylistに戻ります。Media LibraryからOtherのタブを選択し、Live Videoをプレイリストにドラッグします。次にZone:から2:Videoを選択します。HDMI入力の後ろに表示させる動画をプレイリストにドラッグします。

